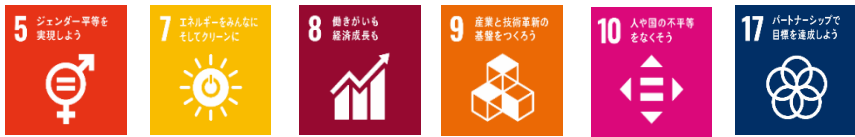


◇豊島区産業振興指針の進捗状況及び課題

参考3

指針1： 中小企業の経営力強化と起業の促進 SDGsとの関連性：



取組の方向性	方針		進捗状況【2025年4月～2026年3月実績】	評価	R8年度目玉事業	今後の方向性
①経営基盤の強化	相談機能の充実と情報発信の強化	事業者の多様化する経営課題に適切に対応するため、としまビジネスサポートセンター連携機関の強みを活かした専門相談員や社会保険労務士、税理士、ビジネスコーディネーターによるワンストップ相談に加え、各種専門機関の紹介や専門家相談料の補助を行い、最も身近な相談役として相談機能の充実を図ります。 また、令和5年にリニューアルしたとしまビジサポホームページやSNS等を活用したプル型・プッシュ型周知を実施し、としまビジサポの支援制度の効果的な周知や区内事業者の新事業・新商品PRの支援。DX推進に資する専門家派遣制度や相談窓口の紹介など、情報発信を強化していきます。	■ビジサポ連携機関による専門家相談窓口 税務(税理士会)：112件 労務(社労士会)：148件 販路拡大(巣鴨信用金庫)：155件	計画通りに進捗している	《事業概要》 DX相談窓口の開設【新規】 《スケジュール》 4月より運用開始	《現状の課題》 ◇相談窓口の周知が足りていない。 《今後の方向性》 ◇チラシやHPを活用した周知を積極的に行う。
	資金調達の円滑化	起業希望者や事業者が必要な資金を低利で受けられるよう、区が融資のあっせんや利子の一部補助を行います。それに加えて、新時代に対応した区独自補助金制度(DXの推進、見本市・商談の出展料補助、販路拡大支援、専門家への相談補助、人材育成支援等)を創設し、利用促進を図ります。 また、Web予約や希望者への訪問相談・オンライン相談の導入とともに、庁内で検討を進めている電子契約・請求の動きと合わせて申請手続きのデジタル化を図り、事業者の利便性向上に努めます。 さらに、事業者のニーズにあった資金調達の一助となるよう、としまビジサポホームページ等で国・東京都・関係団体等の各種補助金の情報提供等を行います。	■豊島区中小商工業融資資金：貸付件数1,254件、貸付金額9,405,180千円 ■開業支援補助金：支出件数88件、支出総額12,302千円 ■経営安定支援補助金：支出件数177件、支出総額20,706千円 ■展示会出展事業補助金：支出件数45件、支出総額5,754千円 ■コラボチャレンジ事業補助金：支出件数3件、支出総額550千円	計画通りに進捗している	《事業概要》 ①第二創業融資【新規】 ②DX補助金【新規】 ③オンライン相談窓口の拡充(経営・労務・税務・DX) 《スケジュール》 ①4月より運用開始 ②5月～11月：申請受付、2月末：支出完了 ③4月より開設	《現状の課題》 ◇一部の紙媒体による申請手続きが、申請者の利便性を損なっている。 《今後の方向性》 ◇補助金申請について、電子申請を検討する。
②多角的なビジネス支援	販路拡大に向けたサポート	事業者にとって最大の経営課題である販路拡大を支援するため、SNSの活用など、時流に合った販路拡大・マーケティングに関するセミナーや相談会の開催、連携機関との協働による個別相談を実施します。さらに、ファーマーズマーケットや協力企業でのテストマーケティングの場の提供、それに合わせた出店サポート相談、としまMONOづくりメッセ等による異業種交流によるコラボレーション・マッチング支援を継続していきます。 また、新たな取組として、区内優良事業者の商品やサービスをふるさと納税の返礼品としてPRすることで、販路拡大を支援します。	■第19回としまMONOづくりメッセの開催 開催日時：令和8年2月27日～28日 来場者数：11,464名 出展規模：93社・団体/105小間 ■販路拡大をテーマとしたビジサポセミナーの実施(8月)：受講者数37名 ■販路拡大相談窓口：155件 ■ふるさと納税返礼品事業者数：102者	計画以上に進捗した	《事業概要》 ①としまMONOづくりメッセの区内企業出展促進 ②ビジサポ専門家相談窓口(販路拡大)の実施 ③ふるさと納税を活用した産業振興・区政PR 《スケジュール》 ①5月～8月：企画、9月～11月：出展・協賛企業募集、1月～2月：来場者募集、2月：事業実施 ②毎週水曜日に実施 ③通年 ふるさと納税返礼品事業者の拡大	《現状の課題》 ◇出展者層の多様化。 ◇販路拡大相談窓口の利用率が充分ではない。 ◇返礼品を活用した寄附の一層の拡大。 《今後の方向性》 ◇会場を変更し、区内産業PRイベントとしてリニューアル予定。 ◇協定機関と連携しつつ、効果的な情報発信の方法を検討する。 ◇新規返礼品事業者の開拓、魅力的な返礼品の発掘。
	SDGs達成に向けた取組支援	区内事業者の約3割がSDGsを理解していない実態があることから、事例紹介やセミナー等の情報提供を行い、事業者がSDGsに取り組む意義やメリットを普及啓発し、SDGsへの理解向上を図ります。ホームページ等でSDGsの取組の好事例・モデル事業者のPRを行い、公民が一体となってSDGs達成に向けた取組を推進します。 また、世界的なGXへの動きに対応し、「2050年カーボンニュートラル」が実現できるよう、東京都や庁内関係部署と連携し、補助金・税制優遇制度や診断ツールの提供などの各種支援策について、メールマガジンやとしまビジサポホームページ等を活用して事業者への情報発信を強化します。	■区内のSDGsの取組の好事例発信 ■新たな基本構想のもと、SDGsのゴールを設定した施策推進により、SDGs達成に向けて不可欠な協働を促進	計画通りに進捗している	《事業概要》 SDGsのターゲットとリンクしている基本構想・基本計画の発信を通じて、区内事業者や就職等を控えている学生たちに、区の施策とあわせてSDGsへの理解を深めていく。 《スケジュール》 7月：SDGs講義(立教大学) 1回 10～12月：大学の授業を活用した講義 1～2回 2～3月：SDGs講義(都立文京高校) 1回	《現状の課題》 ◇SDGsの認知度は高まったが、今後形骸化していく恐れがある。 《今後の方向性》 ◇SDGsのターゲットとリンクしている区の施策を推進かつ発信することで、区政と共にSDGsについて持続的かつ効果的に発信していく。
③あらゆる人材へのスタートアップ支援	多様な人材への起業支援	起業希望者が抱える課題は、性別や年齢、企業準備レベルによって多岐にわたり対応策が異なることから、個別企業相談、セミナー、チャレンジ出店等の準備段階に応じたきめ細やかなサポートを継続します。 今後は、女性のための起業支援を継続するとともに、庁内関係部署と連携した広報や、イベント開催を通じた子育て世代やアクティブシニアへの働きかけ、学生を対象としたビジネスコンテストや意見交換会の開催による学生起業家の支援を行い、新たな潜在起業家を発掘します。また、外国人起業家は言葉の壁による企業に関する手続きの困難さ、文化や風習の違いによるトラブル等の特有の課題があります、庁内の多文化共生推進担当部署と連携し、外国人起業家の課題やニーズ分析を進め、必要な支援を検討していきます。	■女性のための起業塾：全8回、参加者21名 ■3区合同女性起業家交流会(7月)：参加者23名 ■としまフェス(3月)：来場者169名 ■外国人相談窓口：週4日で午後のみ開設していた22言語対応の相談窓口を、週5日の終日対応に拡充。	計画通りに進捗している	《事業概要》 ①起業塾を再編、段階別の起業スクールを実施【新規】 ②池袋駅構内でチャレンジ出店を実施【新規】 ③創業セミナーの拡充(3回→4回) ④外国人起業家の方から相談があった場合も引き続き、関係機関への案内や通訳等により支援を実施。 《スケジュール》 ①6月：入門、7月：基礎(一般・女性)、10月：実践 ②11月より募集開始し、1～2月に実施 ③5月、7月、11月、2月で開催予定	《現状の課題》 ◇新規事業について、有効な事業設計となっているかが不透明である。 ◇外国人起業家に特化した調査が未だ実施できておらず、ニーズや課題が把握できていない。 《今後の方向性》 ◇各事業の効果測定を行い、必要に応じて設計の見直しを行う。 ◇外国人住民全体を対象にしたアンケート調査やヒアリングを実施し、外国人起業支援に資する課題把握を行い、外国人起業家支援に資する取り組み方針を検討していく。
	起業支援施設や人的ネットワークを活用した新ビジネスの創出	安価に利用できるシェアデスク方式のレンタルオフィスであるとしまスタートアップオフィスを活用し、起業時の大きな課題であるハード面への支援を継続します。 また、近隣区と合同の起業家交流会や、民間の起業支援事業者と連携した起業家交流会の開催、区内産業団体が行うネットワーク支援への協力など、ソフト面での支援の充実を図り地域全体で起業家を下支えることで、豊島区に愛着を持つ地域密着型の起業家を増やします。	■スタートアップオフィス利用者：6名(R8.3時点) ■3区合同女性起業家交流会(7月)：参加者23名 ■としま起業家交流会(2月)：参加者38名	計画通りに進捗している	《事業概要》 ①3区合同女性起業家交流会の実施 ②としま起業家交流会の実施 《スケジュール》 ①9月開催予定 ②2月開催予定	《現状の課題》 ◇スタートアップオフィスについて、機能性に限界が生じていることから、有効性が低下している。 《今後の方向性》 ◇民間シェアオフィス事業と比較しながら、事業の見直しを行う。

指針2： 持続可能な商店街に向けた活性化支援

SDGsとの関連性：



取組の方向性	方針		進捗状況【2025年4月～2026年3月実績】	評価	R8年度目玉事業	今後の方向性
①商店街のにぎわい向上支援	商店街のにぎわいをもたらす事業への支援	単一商店会では経費や人員の制約により実施可能な企画に限られてしまう現状があります。商店会同士の交流を促進し、複数商店会での共催や若手や女性などの新たな人材を活用した企画を支援することで、より多彩なイベントを増やし、商店街のにぎわい創出を目指します。区内の大小様々な商店街が、イベントを通じてそれぞれの特色特徴を内外にアピールし、そのにぎわいが面的に拡がり、商店街やまち全体の活気につながるよう事業を推進していきます。また、商店街の空き家店舗に事業者を誘致するなど、商店街の活性化と担い手の確保を支援します。	■空き店舗活性化支援事業：応募者12件、採択者3件 ■イベント事業やプレミアム付地域商品券事業における複数商店会共催事業への支援 ■共催でのイベント実施：5件 ■若手・女性を構成員とするイベントの実施：4件 ■地域商品券の発行事業を共催にて実施：3件 ■商人まつりを6地区（池袋東口、巣鴨、池袋本町、大塚、椎名町、池袋西口）で実施し、区内商店会が出展し魅力をアピールした。	計画通りに進捗している	《事業概要》 ①区内空き店舗を活用し開業する事業者へ補助金と相談受付の2本柱のサポートを実施 ②プレミアム付地域商品券発行事業補助 《スケジュール》 ①6～7月：募集・採択者決定、8月：交付決定、～3月：開業 ②6月頃：募集開始	《現状の課題》 ◇事業の趣旨に見合った提案が少ない ◇事業実施するために商店会の【予算・人員・企画力等】が必要。 《今後の方向性》 ◇商店街の活性化および新たな担い手の育成を目的に制度をリニューアル。事業趣旨の周知強化。 ◇共催実施を勧めることで、事業の拡大を目指す。
	来街者が利用しやすい商店街づくりへの支援	集客力や来街者の利便性の向上を図るため、商店会が作成するホームページやマップなどの販売促進事業を支援します。また、回復してきているインバウンドに対応するため、多言語化やキャッシュレス化に取り組む事業への支援強化し、商店街が観光の目的地となり、更に来街者が増えてより一層にぎわう商店街を目指します。	■活性化事業[販売促進]補助金：3件 ※フラッグ作成：3件	計画通りに進捗している	《事業概要》 活性化事業[販売促進]補助金予定事業：5件 フラッグ作成：2件 商店街マップ作成：2件 商店街ホームページ作成：2件 商店街CD作成：1件 《スケジュール》 4月：事業申請 8月頃：東京都認定後に事業実施（～R9.3月）	《現状の課題》 ◇事業実施するために商店会の【予算・人員・企画力等】が必要。 《今後の方向性》 ◇引き続き、商店会が販売促進ツールの制作を支援することで賑わい創出に寄与していく。
②地域連携によるコミュニティ強化	他団体との連携強化	商店街だけでなくまち全体の活力を創出するため、大学生が商店会へ活性化策を提案するなど商店会と大学や町会などとの連携を促進し、地域の文化資源や観光資源を活かしたにぎわい創出を図るとともに、商店会を核とした地域コミュニティを強化します。	■商人まつりへの他団体の参加 ■地元商店街と大学とのイベントの後援	計画通りに進捗している	《事業概要》 各学校・団体と商店会との連携事業の提案や相談があった際の対応、事業内容のPRを行う。 《スケジュール》 通年実施	《現状の課題》 ◇現状の補助金の要件上、実施主体が商店街のみの事業を補助対象としており、他団体との連携を検討しづらい。 《今後の方向性》 ◇補助金制度の見直しや他の実績等に関する情報提供を強化し、他団体との連携を支援する。
③安全・安心で持続可能な商店街づくり	安全・安心な商店街づくりへの支援	来街者が安全・安心に買い物ができるよう、老朽化した街路灯の整備を推進するとともに、LED街路灯の設置など環境に配慮した事業を強化します。 また、商店街の路面店の空き店舗は、街の景観を損ねるとともに防犯面の問題も指摘されています。地域の大学が空き店舗を活用してアンテナショップを企画・運営した取組を参考に、商店街内の個店に近隣大学の学びの場を誘致するなど、さらなる空き店舗対策を推進します。	■活性化事業[施設整備] 計1件 ※街路灯根巻き補修工事	計画通りに進捗している	《事業概要》 ■活性化事業[施設整備]補助金予定事業 2件 街路灯ポール建替え 街路灯修繕 《スケジュール》 4月：事業申請 8月頃：東京都認定後事業実施（～R9.3月）	《現状の課題》 ◇事業実施するために商店会の【予算・人員・企画力等】が必要。 《今後の方向性》 ◇引き続き、商店会区域内の施設整備を支援することで安全・安心な商店街のまちづくりに寄与していく。
	商店街の維持・発展	商店街の減少を防ぐだけでなく商店街をより発展させていくため、会員加入促進を支援するとともに、各会員店舗の経営力強化を図ります。合わせて商店会同士が連携して行う事業や、近隣商店会の合併など、区域や会員数の拡大による組織力向上を目指す取組も支援します。また、新たな商店街づくりに積極的に取り組む商店会に対する計画策定から事業実施までの一貫した伴奏支援や、先進的な取組を行う商店会的事例紹介、国や東京都の支援策の情報提供を広く行い、持続可能な商店街を目指します。	■商店会向け加入促進文書作成 ■組織活力向上支援事業 7件 ■全商店会向け補助金事業等説明会（R9.2月）や毎月の商店街情報メール、適宜全商店会向け郵送にて支援策等の情報提供を実施	計画通りに進捗している	《事業概要》 プレミアム付地域商品券事業の実施 《スケジュール》 6月以降随時交付申請受付・補助認定、事業実施、実施報告を受け交付額決定・補助金支出	《現状の課題》 ◇予算や人員不足により、事業内容が制限されてしまったり、事業実施が出来ない状況が見受けられる。 《今後の方向性》 ◇共催実施や近隣商店会との協力（合併）を勧めることで、事業の拡大や商店会の組織力強化につなげる。

指針3： これからの産業を支える人材の育成と多様な働き方の推進 SDGsとの関連性：



取組の方向性	方針		進捗状況【2025年4月～2026年3月実績】	評価	R8年度目玉事業	今後の方向性
①中小企業における人材の確保	中小企業の人材確保支援	現在、事業者における大きな課題の一つが人材不足です。未来に向かって発展するためには、適切な人材確保の仕組みづくりが必要です。人材不足に悩む事業者を支援するため、事業者向けのセミナーや就職イベント、助成案内、相談窓口設置等実施している国や東京都の関係団体等の事業を検索できるデジタルツールを整備します。 また、ハローワーク池袋と就職面接会を開催するとともに、公益財団法人東京しごと財団などの関係団体と連携し、就労を促進するセミナーを実施します。さらに、区内事業者への就職や定着を支援するため、事業者や働き方の魅力アップを図ることをテーマとしたセミナー情報の提供などで事業者を後押しします。 そして、多様な価値観を持つ若い働き手の獲得対策として求められる職住近接やワーク・ライフ・バランスを重視した多様な働き方などの課題をどう実現していくか、転職しキャリアアップすることが一般的になりつつある今、就職先として選ばれるために事業者はどうアピールしていくべきかなどについて研究していきます。 そのほか、業務効率を高めることで人手不足の解消につながるよう、AI等の先端技術を活用するなど、時代に適した経営手法を取り入れたDX推進を目指します。	■ハローワーク池袋共催の就職面接会(7月・10月): 延べ参加者数21名、延べ参加企業数6社、延べ採用人数3名	計画通りに進捗している	＜事業概要＞ 就職面接会の実施 ＜スケジュール＞ 6月: 周知および受付開始 7月、10月: 開催	＜現状の課題＞ ◇就業支援に関する情報発信の不足。 ＜今後の方向性＞ ◇HPやメルマガ等の積極的な活用を検討する。
	多様な労働力の活用	生産年齢人口が減少傾向にある中、年齢や性別にかかわらず高度な知識や多様な経験を有する即戦力な労働力を獲得していく必要があります。シルバー人材センターに登録している職務経験が豊富で専門知識を有するアクティブシニアの情報を、事業者が活用しやすくなる仕組みづくりをシルバー人材センターと協力して進めていきます。また、高度な知識・技能を持つ外国人や離職した子育て世代など、多様な人材を雇用する際の注意点や相談窓口の情報を事業者が取得できるよう、産業団体と連携しながら情報を発信していきます。	■シニア暮らしと働き方セミナー(東京しごと財団)(7月・10月・2月): 参加者数139名	計画通りに進捗している	＜事業概要＞ ①生涯現役セミナーの実施 ＜スケジュール＞ ①6月: 周知および受付開始 7月、10月、2月: 開催	＜現状の課題＞ ◇シルバー人材センターに関する周知不足 ＜今後の方向性＞ ◇各産業団体と連携しつつ、情報提供を効果的に行う方法を検討する。
②人材の育成と事業承継	次世代の育成	関係団体と連携し、就業体験やものづくり体験、工場見学などを行い、次世代を担う子ども達に区内産業に触れる機会を提供することで、地域産業への愛着を醸成します。また、区内大学などの教育機関と事業者がつながり、区内で活躍する人材と触れ合える職場見学会や意見交換会といった新たな取組を進め、若い人材の区内産業への理解向上を図ります。	■工場見学: 【Aコース】7月23日 関越物産・スーパーバッグ(19組39名が参加) 【Bコース】7月29日 西武造園・ウエマツ(20組41名が参加) ■第19回としまMONOづくりメッセの開催 ・会期中に区内小学生の社会科見学を実施(5校332名) ■経営者との意見交換会(11月19日 東京商工会議所・大正大学主催)	計画通りに進捗している	＜事業概要＞ ①小学生の親子を対象に、豊島区に縁のある企業の工場見学ツアーを実施。 ②小学生に区内企業の高い技術や製品、ものづくりの情熱を広く発信し、ものづくりに触れる機会を提供。 ＜スケジュール＞ ①4月～6月: 企画検討、7月: 参加者募集、事業実施 ②5月～8月: 企画検討、9月～11月: 出展・協賛企業募集、1月～2月: 来場者募集、2月: 事業実施	＜現状の課題＞ ◇イベントの定員の都合上、参加できる人数に限りがある ＜今後の方向性＞ ◇工場見学の区内協力企業の確保
	事業承継の支援	経営者の高齢化による事業者や商店街の事業承継問題に対応するため、優良事例の紹介をはじめ、事業承継・引継ぎ支援センターや日本政策金融公庫などが実施する相談窓口やマッチング支援策に関する情報を、としまビジサポの窓口やホームページで周知するなど情報発信を強化します。また、従来実施していた事業者向けの事業承継セミナーに加え、新たに商店街向けの事業承継セミナー・相談会を実施し、豊島区で長年愛された個店の魅力を持続できるようなマッチングを支援します。	■マッチングイベントや相談会は未実施 ■経営基盤強化に役立つビジサポセミナー実施 経営戦略(8月): 37名参加 集客力強化(10月): 31名参加 生産性向上・省力化(12月): 18名参加	更なる強化が必要	＜事業概要＞ 事業承継問題に対応した新たなテーマで、ビジサポセミナーを追加開催 ＜スケジュール＞ 7月: 事業承継 3月: 人材確保	＜現状の課題＞ ◇特定の事業者に関する情報を、区が主体となって提供することは行政の立場として難しいため、効果的なマッチングができていない。 ＜今後の方向性＞ ◇セミナーによる人材確保の知識習得機会の提供を進めつつ、マッチング支援の検討を続ける。
③職場環境の充実	多様な働き方の推進	コロナ禍で多くの事業者に広まった多様な働き方は、働く時間や場所に柔軟性を待たせることで、育児や介護による離職を防ぎ新たな人材確保ができると期待されています。区内事業者の魅力アップする取組として、テレワークやフレックスタイム制などについて、導入に向けた課題解決への相談窓口の案内を行うとともに、事業者が国の健康経営優良法人認定制度を活用し従業員の健康管理を経営的な視点で考え戦略的に取り組んだり、ワーク・ライフ・バランス推進企業認定制度を活かして、誰もが働きやすい環境整備を推進できるよう周知アピールしていきます。	■社会保険労務士会による労務相談: 148件 ■令和7年度時点認定企業数: 63社(第15期: 31社 第16期: 32社) ■第17期認定企業 新規: 7社(認定期間: 令和8年4月1日～令和11年3月31日) ■チームとしま所属企業、区内企業への訪問説明: 3社 ■区HPでの第16期認定企業の紹介(8月) ■区長・第17期認定企業による女性活躍等に関する意見交換(1月) ■東京都労働相談情報センターとの共催事業(1月): 講座全2回 参加者のべ71名	計画通りに進捗している	＜事業概要＞ ①ビジサポ専門家相談窓口(労務)の実施 ②労務に関するテーマのビジサポセミナーを追加開催 ＜スケジュール＞ ①隔週木曜日に実施 ②6月開催予定	＜現状の課題＞ ◇労務相談窓口の情報提供不足 ＜今後の方向性＞ ◇社労士会と連携しつつ、効果的な情報発信方法を検討する。
	安心して働ける労働環境の整備	事業者が発展するためには、適切な人事確保に加え、人材が定着する仕組みづくりが必要です。従業員が長く働き続けられる事業所となるためには、経営者が雇用に伴うリスク管理を適切に行い、積極的に職場の労働環境を整備する必要があります。としまビジサポにおける労働相談をはじめ、東京都労働相談情報センター等の関係団体と連携し、労働環境の改善に向けたセミナー情報や法令改正等の情報提供を行うことで、労働環境の向上に向けた事業者の取組を支援していきます。	■社会保険労務士会による労務相談: 148件 ■雇用保険に関するハローワークからの情報を広報としまにて周知	計画通りに進捗している	＜事業概要＞ ①ビジサポ専門家相談窓口(労務)の実施 ②労務や人材確保に関するテーマで、ビジサポセミナーを追加開催 ＜スケジュール＞ ①隔週木曜日に実施 ②6月: 労務、3月: 人材確保	＜現状の課題＞ ◇労働環境の整備を推奨する情報発信の不足 ＜今後の方向性＞ ◇社労士会や各産業団体等と連携しつつ、広く情報発信できる方法を検討する。
④伝統工芸技術の承継と発信	伝統工芸技術の承継と発信	長きにわたり受け継がれてきた伝統工芸の技術は、工芸士の高齢化により承継が危ぶまれています。伝統工芸の技術習得には時間を要し、すぐには生業としにくいのが現状です。体験教室や伝統工芸展等のイベントを通じて次世代のものづくりへの関心を喚起するとともに、若い世代を対象とした職人体験や後継者育成など、時流に合わせて段階を踏んだ技術承継の支援を行っています。 また、現在も実施している伝統工芸保存会ホームページや映像、リーフレットを活用したPRに加え、ふるさと納税の返礼品として工芸品や工芸体験をPRすることで、豊島区外の新たな購買層を開拓し、さらなる商品開発や販路拡大を支援します。	■常設展示: 庁舎3階ショーウィンドウ、5階区長室前 ■伝統工芸教室の開催: 5業種(手描友禅、貴金属装身具、べつ甲、金工、つまみ細工)令和7年4月～令和8年3月: 月2回程度実施 ■夏休み伝統工芸教室の開催: 小学生向け2日間、中学生向け1日 参加者数: 206名 ■第19回としまMONOづくりメッセへの出店及び体験教室(社会科見学・大人対象)の開催 ■ふるさと納税返礼品への参加: 9名	計画通りに進捗している	＜事業概要＞ 中学生から大人を対象とした伝統工芸教室を開催し、より幅広い層に伝統工芸の周知を図る。 ＜スケジュール＞ 8月: 中学生以上対象夏休み伝統工芸教室開催 2～3月: としまMONOづくりメッセにて中学生以上対象の体験教室を実施	＜現状の課題＞ ◇伝統工芸作品・技術の認知度が低い ＜今後の方向性＞ ◇ふるさと納税スキームを活用した伝統工芸品の販路拡大 ◇次世代にむけた地域の伝統工芸のPR

指針4： 観光振興による地域社会・経済の好循環化 SDGsとの関連性：



取組の方向性	方針		進捗状況【2025年4月～2026年3月実績】	評価	R8年度目玉事業	今後の方向性
①まちの魅力の活用推進	地域の魅力発見・発信	新型コロナウイルス感染症の拡大期には、人流は大きく変化し豊島区内の観光産業も打撃を受けました。豊島区には、欲しいもの食べたいものがすぐに手に入る池袋、昭和レトロを感じるマンガのまち南長崎、歴史と文化が息づく雑司が谷・目白、都電とバラの街並みに「和」が溶け込んだ大塚、商店街の魅力あふれる巣鴨、花とみどり豊かな駒込など、各地域が異なる魅力を持っています。遠方からの来街者に限らず区民が自分のまちを楽しむ視点も重要です、池袋をはじめとして街歩きで楽しめる「ウォーカブルなまち」を目指し、消費行動ももつなげていきます。 また、区の文化・観光にまつわる様々な情報を、WEBサイト「IKE-CIRCLE(イケ・サークル)」に集約し、SNSを活用した若年層への情報発信の強化やデータ分析に基づいた効果的・効率的な観光施策を展開していきます。さらに、区内で増加しつつある外国人留学生の情報ネットワークを活用した観光魅力の発信について、検討を進めます。	■観光課公式Instagram等のSNSを使用しイベント・観光情報の発信を行った。 ■池袋リビング・ループの開催：（隔月マーケット）3回（スペシャルマーケット）1回	計画通りに進捗している	《事業概要》 ①観光課Instagramとシティプロモーション課Instagramの連携により、横断的な情報発信を行う。 ②グリーン大通りを起点とした「ネイバーフッドコミュニティ」を目指す。 《スケジュール》 ①7月頃までにCP課Instagramとの連携方法を検討し、夏から年度末にかけて新たな情報発信を実施する。 ②4・5・6月：マーケット、11月1～3日：スペシャルマーケットの開催	《現状の課題》 ◇観光課管理のWEBページ「IKE-CIRCLE(イケ・サークル)」廃止に伴い、新たな情報発信手段の検討が必要。 ◇グリーン大通り・南池袋公園と四つの公園の連携 《今後の方向性》 ◇広報課の所管である「としまの魅力」ページとの連携強化を検討する。 ◇イベント時における公園間連携による回遊性の促進
	としまの地域ブランドのさらなる磨き上げ	豊島区では、芸術・音楽などをはじめとするクリエイティブ産業が活発です。なかでもマンガ・アニメは、令和2年(2020年)にオープンしたトキワ荘マンガミュージアムをはじめ、アニメグッズの大型ショップが進出し、マンガ・アニメを活用したイベントが多く開催されるなど、マンガ・アニメ・コスプレの聖地として注目を集めています。今後も、東京都のアニメ拠点「アニメ東京ステーション」や関係団体・事業者との連携を強化します。また、文化都市としての地域ブランドを高めるための観光事業を推進し、来街者のさらなる増加と、それに伴う観光消費額の拡大による地域経済の活性化を目指します。	■トキワ荘マンガミュージアム特別企画展の開催：3回 来館者41,433名 ■池袋オータムカルチャーフェスティバル(池袋ハロウィンコスプレフェス、アニメイトガールズフェスティバル、オータムカルチャーマルシェ、としまマンガ・アニメフェスタ)の開催 来場者335,545人 ■マンガ・アニメ街なかコラボ(商店会フラッグ・プリリアホール装飾) 12件	計画通りに進捗している	《事業概要》 トキワ荘マンガミュージアムをはじめ、マンガ・アニメを活用したイベントや関係団体・事業者との連携強化による地域経済の活性化を目指す。 《スケジュール》 ・トキワ荘マンガミュージアム特別企画展(3回)、6周年記念月間イベント(7月) ・池袋オータムカルチャーフェスティバル(10,11月) ・マンガ・アニメ街なかコラボ(通年)	《現状の課題》 ◇トキワ荘マンガミュージアムでの魅力的な企画展の開催 ◇マンガ・アニメ・コスプレのイベント拡大に伴う地域理解の促進 《今後の方向性》 ◇トキワ荘関係者との調整、イベント実行委員会での情報共有と地域理解への対応を進める。
②誰もが観光を楽しめる環境の整備	ユニバーサルツーリズムの推進	来街者の利便性を向上させ、安全・安心に観光することができる環境整備には、バリアフリーの視点が重要です。豊島区では、「池袋駅地区バリアフリー基本構想」に基づき、案内サインやトイレ、エレベーターなどのハード面に加え、心のバリアフリーなどのソフト面も含めた、一体的で質の高いバリアフリーの充実を関係事業者と連携し推進しています。これに加えて、外国人などがそれぞれが持つ多様な文化・習慣への対応や、コミュニケーションの障壁をなくすことで、誰もが心地よく過ごせる環境づくりを目指します。 また、キャッシュレス化やデジタルメニューの導入など、デジタル技術を活用することで、誰もが快適に過ごせるおもてなし環境の整備を促進します。	■豊島区内観光案内標識等維持・管理業務(94基) ■インバウンド旅行者を対象に、ヴィーガン・ベジタリアン対応飲食店のデジタルマップを整備(観光協会) ■令和7年度、協議会休止 ■特定事業計画等の進捗管理実施	計画以上に進捗した	《事業概要》 ①街なかの観光案内サインについて、修繕等を行う。 ②関係事業者と連携して、特定事業計画の進捗管理を実施する 《スケジュール》 ①夏～年度末：観光案内サイン 修繕等対応 ②8月各施設管理者へ進捗状況の更新依頼、12月までに取りまとめ、3月までに進捗状況を協議会委員へ周知・ホームページにUP。	《現状の課題》 ◇多様な文化・習慣等への対応力の強化 ◇デジタル化も踏まえたおもてなし環境の整備 ◇特定事業計画等の進捗管理 《今後の方向性》 ◇豊島区へ訪れた誰もが快適に過ごせるよう、ハード面・ソフト面の検討を行う。 ◇基本構想改定、令和8年度新払提案
	インバウンドに向けた取組	アフターコロナの状況で海外からの来街者が戻りつつある今、多くの外国人旅行者が豊島区の魅力を体験し、快適な観光を楽しめるような仕組みが必要です。 商品の購入だけでなく、日本文化体験やその時にその場でしか経験できない特別な体験プログラム、体験型ツアーの充実を進め、観光の高付加価値化を図ります。そして、まちをよく知る各地域の案内人の活用や、外国語通訳ガイドなどの要請を一般社団法人豊島区観光協会と連携して行い、おもてなしの実践の場を提供していきます。また、快適な滞在とするために、観光案内標識における多言語表示の充実、インバウンド冊子の発行の取組も進めていきます。	■豊島区内観光案内標識等維持・管理業務(94基) ■観光協会と連携したインバウンドのマップの発行 ■池袋東口観光案内所の運営 ■インバウンド向けツアー(イケバスシティガイドツアー)の企画 ■インバウンド旅行者を対象に、ヴィーガン・ベジタリアン対応飲食店のデジタルマップを整備(観光協会)	計画以上に進捗した	《事業概要》 インバウンドを含めた来街者の受入環境整備 《スケジュール》 ニーズに対応した対応を都度実施していく。 ・地域連携を活用したイベントの開催 ・インスタグラム、グーグルフォームを活用した観光情報発信	《現状の課題》 ◇安全安心な街づくりに向けた取り組みの継続 《今後の方向性》 ◇安全安心な街づくりに向けた取り組みの継続
③産業と観光の融合による新たな価値の創造	商店街振興と融合した観光施策	豊島区内には、神社仏閣や文化遺産、伝統工芸、食など、各地域に特色豊かな観光資源があり、それらを目的に内外から来街者が集まります。しかし、目的地を観光後、すぐに移動してしまうケースも多く、隣接する商店街を周遊し長く滞在してもらう仕組みづくりが必要です。 商店街の個々の店舗の魅力を高めることに加え、商店街内の老舗店やそこでしか変えない銘品、商人まつりなどの商店街イベントについて、WEBサイト「IKE-CIRCLE(イケ・サークル)」でPRし、商店街を観光名所のひとつとして人呼び込む取組を進めていきます。	■豊島区内の観光イベント等の後援・共催。イベント支援により豊島区各地域への誘客を促し、商店街等地域経済に貢献した。 ■豊島区観光協会が実施した「としま観光みやげ品認定事業」について、「としまの魅力」ページ及び観光課Instagramにて周知した。	計画以上に進捗した	《事業概要》 イベント等の開催時期に合わせ事業に紐づけた周辺施設の紹介をInstagram等を利用し行い、区内商店街等周遊を促す。 《スケジュール》 イベント開催等に応じ適宜情報発信を行う。	《現状の課題》 ◇今年度におけるとしま観光みやげ品のPR方法 《今後の方向性》 ◇としま観光みやげ品の次回認定が9年度を予定しているため、今年度の効果的なPR方法等を検討する。
	区内銘品のブランディング	豊島区内でしか買うことのできない銘品や伝統工芸品、伝統芸能の体験型コンテンツを、ファーマーズマーケットやふるさと納税の返礼品など、区が有する販路を活用し広く来街者へもPRしていきます。 また、商店会と交流都市の連携によるコラボ商品の開発や、近隣の商店会が連携したまちおこしブランドの立ち上げなど、地域ブランドの振興に関する新たな取組が進みつつあります。今後は、それらの自発的な取組を支援し、豊島区ファンを増やし、消費額の拡大へつなげていきます。	■ふるさと納税返礼品の登録数：475品 ■区内事業者によるファーマーズマーケットやとしまMONOづくりメッセ出店 ■6地区(池袋東口、巣鴨、池袋本町、大塚、椎名町、池袋西口)で実施した商人まつりに区内商店や交流都市から多数出店し魅力をアピール	計画以上に進捗した	《事業概要》 ①ふるさと納税を活用した産業振興・区政PR ②各種イベントへの出店 《スケジュール》 ①通年実施 ふるさと納税返礼品の拡充 ②通年実施	《現状の課題》 ◇近隣自治体と比較し、ふるさと納税の寄附実績に拡大の余地あり。 ◇イベント等に商店会と交流都市が集うことはあるが、連携事業の検討・実施には至っていない。 《今後の方向性》 ◇魅力的な返礼品や体験型返礼品の充実による寄附実績及び自治体PR力の強化。 ◇連携事業やコラボ企画等を勧め、産業と観光の発展を目指していく。

指針5： 未来へつながる消費者市民社会の形成

SDGsとの関連性：



取組の方向性	方針		進捗状況【2025年4月～2026年3月実績】	評価	R8年度目玉事業	今後の方向性
①サステナブル経営の推進	事業者に向けた啓発と情報発信	環境・社会・人に配慮するエシカル消費など、消費者志向の経営に取り組む事業者情報を、消費者および消費者団体等関係団体と共有して、事業の推進をサポートします。また、エシカル消費の推進のため、区内事業者の社員向け研修などを対象とした出張講座を新たに開催します。 さらに、消費者と事業者がお互いを信頼し手を取り合いながら発展していく健全な市場を形成するため、法令を遵守した事業活動と消費者保護に向けた取組が推進されるよう、事業者向けコンプライアンス講習会等の情報を共有します。	■消費者庁が実施する「消費者志向経営優良事例表彰」の募集をビジネスサポート通信を通じて周知した。	計画通りに進捗している	《事業概要》 企業の新規採用者向けに、若者向けの被害防止啓発講座及び高齢者の見守り講座を実施【新規】 《スケジュール》 5月20日：巣鴨信用金庫の新規採用者研修で実施	《現状の課題》 ◇今後は企業への講座の周知方法を考えていく必要がある。 《今後の方向性》 ◇引き続き企業向けの「出張講座」充実を図る。
		区民サービスの充実を図るため、消費生活センターの開設時間を延長しました。相談状況については分析を行い、消費者問題の傾向を中小企業支援関係部署とも情報共有します。 また、高齢者総合相談センターなどの関係団体との連携の強化やSNSを活用し、相談窓口の周知を図ります。	■高齢者福祉課が実施している「見守りと支えあいネットワーク事業」へ積極的に参加し消費者被害の未然防止対策と、消費生活相談の周知を図った。	計画通りに進捗している	《事業概要》 昨年度に引き続き、「見守りと支えあいネットワーク事業」へ参加し情報連携を図るとともに、高齢者を見守る方への消費者被害防止のための見守りのポイント講座を実施。 《スケジュール》 高齢者総合相談センター、介護予防センターでの「出張講座」を実施(10/13、10/28、1/22)。	《現状の課題》 ◇相談・見守り連携強化型の「消費者安全確保地域協議会」の設置が求められてる。 《今後の方向性》 ◇高齢者福祉課が実施している「見守りと支えあいネットワーク事業」への参加を機に、消費者庁が進めている消費者安全確保地域協議会の設置を検討する。
		区民ひろばを中心にした高齢者向けや、子どもスキップと連携した若者向けの消費者被害防止啓発を行います。 また、消費生活相談員が小学校、中学校、高校および大学へ出向き「出張講座」を開催し、よりよい社会の形成に参画する消費者になるための消費者教育を実施します。	■小学生向けの消費者教育の実施 消費生活相談員が駒込小学校の6年生を対象として、消費者教育「出張講座」を実施した。	計画通りに進捗している	《事業概要》 高齢者を対象とした講座の他、子どもを対象にした消費者教育と若者を対象にした消費者教育を実施。 《スケジュール》 夏休み期間を中心に子供向けの講座を11回実施。	《現状の課題》 ◇高齢者対象の講座とあわせて、子ども・若者への充実が必要。 《今後の方向性》 ◇子ども・若者への講座の充実を図る。
②消費者の権利とつかう責任の啓発	消費者トラブルの未然防止啓発と消費者教育	消費者が自ら責任を持った消費行動を行い、公正で持続可能な社会の形成が実現できるように「消費生活口座」等を開催し、「食品ロス」や「エシカル消費」「カーボンニュートラル」など消費者問題に関する啓発事業を実施します。 また消費者教育の充実により、消費者と事業者の格差により発生する消費者問題の未然防止を図ります。	■消費生活講座の充実 夏休みに親子を対象とした食育講座「親子で作ろう 地球に優しいナンづくり」にチャレンジを実施	計画通りに進捗している	《事業概要》 消費生活講座を年9回実施。 《スケジュール》 「食育講座」年6回(うち1回は親子講座)の他、「デジタル遺品(終活)」「災害時のトイレ(防災)」「食品表示(エシカル)」講座を実施。	《現状の課題》 ◇平日昼間の講座に参加できない年齢層などの対応が必要。 《今後の方向性》 ◇昼間の時間帯だけでなく、夜間講座を実施して参加年齢層の拡充を図る。